

コーパスを利用した実現相の機能動詞の異同について

— 「至る」「達する」と名詞の共起状況を手掛かりに —

中 溝 朋 子
坂 井 美 恵 子
金 森 由 美

要旨

本稿では、村木(1991)の機能動詞の実現相の中から「至る」と「達する」を取り上げ、コーパスにおける名詞との共起状況を手掛かりに異同を検討する。結果としてこれらは実質動詞として「目的地・場所に行きつく」という意味は共通しているが、「至る」はよりその経過や過程に、「達する」はより達すること、達した状態に着目がある点に違いがあり、そこからそれぞれの機能的意味が生まれているという結果を得た。

キーワード

コーパス, 機能動詞, コロケーション, 共起, 実現相

1 はじめに

本稿では、村木(1991)が機能動詞の実現相で取り上げている動詞の中から、実質動詞の類義語とされる「至る」と「達する」を取り上げ、コーパスにおける名詞との共起状況を検討することで、両者の異同を明らかにする。

近年、コーパスの開発が進むに伴い、日本語教育での利用も進んでいる。一方で、コロケーションの重要性も指摘されており、コロケーションに特化した辞典や教材なども作成されている。本稿もその重要性を考慮し、コーパスにおける実際の使用状況を基にしたコロケーション学習教材を作成するための基礎資料を蓄

積することを目指している。中でも村木(1991)の機能動詞と呼ばれる動詞と名詞のコロケーションは、学習者にとってその結びつきの予測は困難と予想される。本稿では、機能動詞の性質を明らかにする一環として、実現相のアスペクトを表す「至る」と「達する」を取り上げ、その異同を明らかにしたいと考える。

2 先行研究の検討

2.1 本稿で考えるコロケーションの範囲

日本語教育において、どの範囲をコロケーションと考えるべきか、具体的に学習者にどのよ

うなコロケーション情報を提示すべきかは難しい課題である。従来、日本語教育で考えられてきたコロケーションは、固定度が高い慣用句や、自由に結びつく語の結合との区別という点から議論されてきた「連語的慣用句」(宮地 1985)、「連語」(国広 1997)などの概念に近い、ある程度固定的なレベルであった(三好 2007)。これらは「風呂から上がる」「暇を潰す」など、「語と語の結び付きかたは決まっているけれども、全体の意味は個々の語の意味からすぐ分かる」ものの、結びつき方は決まっているため「外国人学習者には特に必要」な知識とされている(国広 1997:128-129)。しかし近年、日本語教育においては学習者の母語の影響や誤用の可能性などを考慮し、三好(2007)では「菓を飲む」、大曾(2005)では「テニスをする」、「風呂を沸かす」など自由結合とも分類され得る例についても取り上げるべき内容と指摘されている。本稿でも三好(2007)や大曾(2005)と同様に日本語教育におけるコロケーションは、学習者が自然な日本語を効率的に習得するために必要な情報が含まれることが重要な要素と考え、語の意味の総和が全体の意味にはならない慣用表現を除き、より広くその範囲を考えることとする。

2.2 コーパスの有用性

コーパスの重要性は既に多く指摘されている。例えば前川(2013)は、言語研究におけるコーパスの意義について内省の確認ないし予期せぬ発見が可能なこと、内省では正確に予測できないレジスター差などを明らかにできることなどを挙げている。

例えば大曾(2005)では、文法的には互換可能な「大きい+Noun」と「大きな+Noun」の使用例数や使われ方の比較や、類義語である「議論」と「論議」がいわゆるスル動詞として使用

可能か、「一を呼ぶ」などの動詞と共起可能かなど数値を挙げて説明し、その違いを明らかにしている。日本語学習には、このような使用法に関わる情報は大変重要であり、こうした情報を得るためにコーパスは大変有用であると考えられる。したがって本稿でも、コーパスを用いて、機能動詞と名詞の共起の実態を明らかにしたいと考える。

2.3 「至る」と「達する」の辞書的な意味

本稿で調査対象としている類義語「至る」「達する」の意味の異同について、辞書的な意味の例を表1と表2に示す。

表1 「至る」の辞書的な意味

| | |
|---|--|
| 1 | ある目的地・場所に行き着く。到達する 「峠を経て山頂に一・る」 |
| 2 | ある時間・時点になる。 「今に一・るも連絡がない」 「交渉が深夜に一・る」 |
| 3 | ある段階・状態になる。結果が…となる。「大事に一・る」 「倒産するに一・る」 「事ここに一・ってはやむをえない」 |
| 4 | 広い範囲に及ぶ。行きわたる。 「関東全域に一・る」 「恩沢一・らざる所なし」 細かいところまで行き届く。 「注意が一・らない」 「一・らない看護」 |
| 5 | 自分の方へやって来る。到来する。 「好機一・る」 「悲喜こもごも一・る」 |
| 6 | (「…から…にいたるまで」の形で) ある範囲の両端の事柄を例示して、その範囲のものすべて、の意を表す。 「頭先从から足の先に一・るまで」 (「…にいたっては」の形で) 中でもそれが極端であることを表す。 「腕力に訴えるに一・っては許しがたい」 |
| 7 | 極限に達する。きわまる。 「徳の一・れりけるにや」〈徒然・六〇〉 |

『デジタル大辞泉』

表2 「達する」の辞書的意味

| | |
|---|---|
| 1 | ある場所・目的地に行きつく。至る。 「登山隊が山頂に一・する」 物事の内容が伝わり届く。 「噂が教師の耳にも一・する」 ある数値になる。一定の数値に届く。 「被害は二億円にも一・した」 「募金が目標額に一・する」 ある状態・程度になる。 「世界的水準に一・する」 |
| 2 | 学問・技芸に深く通じる。熟達する。 「一芸に一・した人」 |
| 3 | 物事をなしとげる。はたす。達成する。 「望みを一・する」 |
| 4 | 告げ知らせる。伝える。わからせる。 「命令を一・する」 |

『デジタル大辞泉』

「至る」「達する」の実質的な意味としては、「目的地・場所に行きつく」ことが共通しており、そこから「ある段階・状態・程度になる（『至る』『達する』）」「成し遂げる（『達する』）」などの機能的な意味が生まれていると考えられる。しかしこの実質的意味の違いや使い分け、それぞれの語が持つ複数の意味の関連性は必ずしも明確ではない。以下本稿では、コーパスのデータを基にこれらの動詞の異同を明らかにすることを目的に検討し、その過程で実質的意味と機能的意味の関連についても検討したい。なお「至る」には、「至るところ」などの慣用的な表現も存在するが、本稿では分析の対象とはしない。

3 コーパスおよび調査方法

本稿では、データとして『現代日本語書き言葉均衡コーパス（以下、BCCWJ）』（国研 2011）の検索アプリケーション「中納言」（短単位、可変長データ）を用いて、「至る」「達する」と共起する名詞を以下のように調査、分析する。まず、検索には、①キーに「品詞-大分類-助詞」、前方1語「品詞-大分類-名詞」、後方1～2語に

「語彙素」とし「至る」、「達する」を用い、共起する名詞を検索、集計する。②集計した名詞について、日本語教師3名で「具体名詞」、「抽象名詞」、「動作名詞」に分類し、③Microsoft Excel を用いてそれぞれの名詞と動詞のダイス係数¹⁾を算出し、共起頻度とクロス集計を行い、ダイス係数順にソートした後、④それぞれの動詞に共起する名詞の特徴について分析する。

なお本稿では、「動作名詞」は、村木（1991）の定義にある①スル動詞となる名詞、②動詞の連用形に加え、③（①②以外に）動作を表す名詞（例：打撃、衝撃）とした。「具体名詞」は、実体がある人や物を指す名詞（固有名詞も含む）、「抽象名詞」は、抽象概念を表す名詞（時間・量など数量的概念、位置的・社会的関係性を表す語を含む）と定義する²⁾。また品詞分類は、BCCWJで付与されている分類に従う³⁾。

4 調査結果

表3に「至る」、表4に「達する」と共起した名詞をそれぞれ分類別にダイス係数順に上位15語示す。各表題の動詞の後ろ（）内の数字はBCCWJ中の当該動詞と名詞の共起頻度を表す。またダイス係数は「D係数」とし、1万倍した数値で表す。またダイス係数が高い値でも共起頻度が5未満の語は表から省いている。

結果として、全般的には「至る」「達する」とともに具体名詞との共起が少なく、抽象名詞との共起が最も多いという傾向が見られた。「達する」では共起する動作名詞の数も少なく、抽象名詞との共起が圧倒的に多かった。

以下、それぞれの動詞と共起する名詞の特徴について具体的に検討する。

表3 「至る (10371)」と共起する名詞⁴⁾

| 順位 | 具体名詞 | | | 抽象名詞 | | | 動作名詞 | | |
|----|------|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|
| | 共起語 | D係数 | 共起頻度 | 共起語 | D係数 | 共起頻度 | 共起語 | D係数 | 共起頻度 |
| 1 | 川 | 13 | 16 | 死 | 305 | 312 | 合意 | 90 | 61 |
| 2 | 頂上 | 12 | 7 | 現在 | 165 | 367 | 解決 | 35 | 35 |
| 3 | 湾 | 11 | 7 | 今日 | 136 | 334 | 実現 | 32 | 31 |
| 4 | 広場 | 10 | 7 | 段階 | 73 | 77 | 戦争 | 25 | 30 |
| 5 | 橋 | 10 | 8 | 結論 | 69 | 50 | 離婚 | 25 | 18 |
| 6 | 天皇 | 9 | 9 | 細部 | 64 | 35 | 締結 | 23 | 15 |
| 7 | 街 | 9 | 9 | 事態 | 57 | 45 | 完成 | 22 | 18 |
| 8 | 駅 | 8 | 10 | 現代 | 55 | 49 | 死亡 | 20 | 15 |
| 9 | 作品 | 8 | 10 | 境地 | 44 | 24 | 逮捕 | 20 | 14 |
| 10 | 地 | 7 | 13 | 紛争 | 40 | 26 | 結婚 | 18 | 24 |
| 11 | 山 | 6 | 10 | 後半 | 29 | 22 | 成立 | 18 | 16 |
| 12 | 大学 | 4 | 8 | 晩年 | 29 | 16 | 思い | 16 | 18 |
| 13 | 機 | 4 | 7 | 今 | 28 | 152 | 認識 | 16 | 16 |
| 14 | | | | 近代 | 26 | 21 | 自殺 | 16 | 11 |
| 15 | | | | 期 | 25 | 35 | 考え | 14 | 14 |

4.1 「至る」と共起する名詞の特徴

以下、表3の「至る」について名詞の分類別に検討する。

「至る」と共起する具体名詞は、「川」「湾」「広場」など地形的特徴や地理上の場所の名称、「橋」「街」「駅」といった構造物も多く共起していた。その他、表外ではあるが固有名詞なども多く見られた。また13位の「機(7例)」は、「電話機」が5例、「戦闘機」「ジャンボ機」が1例ずつあり、「家庭用ホームビデオやテレビ、電話機に至るまで」「徒歩による移動からジャンボ機に至るまで」のように使用されている。

抽象名詞では、時間を表す語が多く共起し、特に「現在」「今日⁴⁾」「現代」など現時点の意味を表す言葉が上位に見られた。このほか表外ではあるが、「年」「日」など具体的な日付を表す表現も多く共起していた。その他、「段階」「事態」「境地」など状況の変化の程度や進度を表す語や、「死」「結論」といった最終の段階を表す語なども共起していた。また時間を表す語を除くと20位までに、「状態(D係数12, 共起頻度24)」「結末(D係数18, 頻度10)」「敗

戦(D係数17, 共起頻度10)」「判決(D係数14, 共起頻度10)」「末端(D係数13, 共起頻度7)」などと共起していた。

また動作動詞では、「合意」「解決」など、必要な準備期間や前段階を経て動作が完結する、もしくは一つの区切りになる名詞と共起していた。

4.2 「達する」と共起する名詞の特徴

以下、表4の「達する」について名詞の分類別に検討する。

「達する」と共起する具体名詞でも、「頂点」「地表」「地点」など、地理上・地形上の場所を表し得る語が共起していた。しかしこれらは抽象化された位置関係を表す語であり、「頂点」「頂上」など最高点を表す語が上位に共起していた。このうち「頂上」はすべて地理的な意味で使用されていたが、「頂点」はすべて抽象的な意味(「怒り(9例)」など)で使用されていた。また「至る」では共起が下位であった「肺」「脳」など臓器の名称が、「達する」では上位

表4 「達する (5638)」と共起する名詞⁵⁾

| 順位 | 具体名詞 | | | 抽象名詞 | | | 動作名詞 | | |
|----|------|-----|------|-------|-----|------|------|-----|------|
| | 共起語 | D係数 | 共起頻度 | 共起語 | D係数 | 共起頻度 | 共起語 | D係数 | 共起頻度 |
| 1 | 頂点 | 484 | 130 | ピーク | 438 | 129 | 合意 | 255 | 96 |
| 2 | 成人 | 41 | 14 | 結論 | 381 | 159 | 成熟 | 18 | 5 |
| 3 | 地表 | 36 | 9 | 域 | 352 | 109 | 認識 | 15 | 10 |
| 4 | 地点 | 35 | 11 | 水準 | 304 | 150 | 理解 | 4 | 5 |
| 5 | 耳 | 31 | 21 | 限界 | 228 | 87 | | | |
| 6 | 頂上 | 30 | 8 | (最高)潮 | 186 | 50 | | | |
| 7 | 点 | 25 | 58 | 絶頂 | 177 | 41 | | | |
| 8 | 肺 | 17 | 5 | 極限 | 168 | 40 | | | |
| 9 | 脳 | 16 | 9 | 境地 | 150 | 36 | | | |
| 10 | もの | 11 | 5 | レベル | 144 | 93 | | | |
| 11 | | | | 目的 | 142 | 175 | | | |
| 12 | | | | 臨界 | 130 | 30 | | | |
| 13 | | | | % | 128 | 432 | | | |
| 14 | | | | ドル | 125 | 86 | | | |
| 15 | | | | 年齢 | 110 | 80 | | | |

に共起していた。一方、「至る」では下位で共起していた病名「肺炎」「腎炎」は、「達する」では共起していない。

また抽象名詞でも「ピーク」「(最高)潮⁵⁾」「絶頂」など最高の状態を表す語と多く共起している。また「域」「水準」「レベル」といった質の程度の段階を表す語も多く共起しているが、これらも例えば「完成の域 (9例)」「芸術の/芸術的な域 (5例)」「高い水準/高水準 (各10例)」「高いレベル (4例)」のように質が高いことや、「一定の水準 (8例)」「ある/ある程度のレベル (各4例)」のように評価できる質の高さについて述べる場合が多かった。このほか、「結論」「境地」など最終的な段階を表す語や、「限界」「極限」などリミットを表す語も共起している。しかし抽象名詞の多くが高い水準などを表していた中で、表外ではあるが「疲労 (5例)」「我慢の/が限界 (8例)」のように必ずしもプラス評価の意味を表していない例もあった。「%」「メートル」「円」などの単位や16位以下であるが「台」「件」「名」などの助数詞も多く共起していた点も「至る」と異なっ

ている。

また「達する」は動作名詞との共起は非常に少なく、共起頻度5以上の名詞は表4の4語のみであった。これらはすべて「至る」と共起する名詞同様、必要な準備期間や前段階を経て動作が完結する、もしくは一つの区切りになる名詞である。

以上、「至る」「達する」と共起する名詞の特徴を概観したが、これらの名詞の中には「至る」「達する」の両者に共起する名詞もいくつか存在する。5ではこれらの名詞について検討する。

5 「至る」「達する」に共通する名詞

名詞の分類別ダイス係数上位15語の中で、「至る」「達する」に共通して共起していた名詞には、抽象名詞の「結論」、動作名詞の「合意」がある⁶⁾。また抽象名詞として「段階」も両者と共起している(「達する」とD係数69, 共起頻度52)。これら3語と共起する場合にそれぞれの動詞によって見られる特徴、互換性の有無などについて以下検討する。例文末()

内のアルファベットは、BCCWJのサブコーパスの略称を、数字は例文番号を示す⁷⁾。例文中の波線、下線、二重下線は筆者らによる。

5.1 「結論」

以下、抽象名詞「結論」が「至る」「達する」と共起する例文について検討する。

(a) 彼らは篠田英治が隕石をどこかに隠して死んだ、という結論に至った (○達した)。

(PB59_00677)

(b) このように、なお多くの課題を残しているとはいえ、現在の西欧学界は、中世前期のデナリウス貨が西欧内部での社会経済的發展の中から生まれ、そこで積極的な役割を演じたとの結論に達して (○至って) いる。

(PB52_00221)

(c) レポートの内容を、図、表、グラフ、簡単な語句を用いて簡潔にまとめ、決められた時間内 (十分間程度) でポスターやOHP (オーバーヘッドプロジェクター) などを用いて発表し、実験の経過から結論に至る (×達する) 過程を他人に理解してもらおう。

(OT23_00025)

(d) そしてベラは、ジョージアナと同じほど熱くなっていて、すぐさま正しい結論に達した (△至った)。(PB29_00041)

「結論」が「至る」「達する」と共起する例の多くは、(a) (b)のように「～という/との結論」の形でその内容に言及しており、その場合は「至る」「達する」は互換可能と考えられる。

一方、(c)の例では「実験の経過から結論」という時間的な範囲を表しており、このように「至る」が範囲を表す場合は「達する」と互換性がない。また(d)のように早い時間で結論に到達したということに着目があり、結論に至る

過程に着目していない場合には、互換の容認度は低くなると考えられる。

5.2 「段階」

以下、抽象名詞「段階」が「至る」「達する」と共起する例文を検討する。

(a) シンガーによれば菜食主義になることで人間は倫理的に一段上の段階に至る (○達する)とされている。(PB55_00083)

(b) 我が国の双方向CATVは、現在実用段階に達して (○至って) おり、(0W3X_00546)

(c) 今日人類にみられる、肉親が泣きながら柩をおおうような、深い人と人の絆が、当時すでに、存在していたことをうかがわせる。新人(クロマニヨン人、二十万から三万年前)の段階に到り (×達し)、前頭葉上部も拡大し、脳の形は現代人のそれに全く遜色ないものになる。(LBk4_00017)

(d) わが国はそれら新興援助国との協力の枠組み文書 (パートナーシップ・プログラム) の下、南南協力を積極的に支援しています。パートナーシップ・プログラム日本の協力を受けてある程度発展段階に達した (×至った) 国が、日本と共同で、より開発程度の低い近隣国や、言語、歴史、文化等が似通った国や地域に対して技術協力を実施する枠組みをいう。(0W6X_00052)

(e) 最も重篤な最終段階に至る (×達する) と多くの場合、問題は心臓血管にかかわる。(PB59_00541)

「段階」では、(a) (b)のように互換可能な例も多い。また(c) (d)のように、「至る」「達する」は、ともに途中の段階である場合にも使用可能である。このうち(c)は「深い人と人の絆」がその後も続く現象であり、「新人」とい

う段階に「至る」ことが、ある段階の最終段階でもなく、そこから「絆」という現象が始まることを述べている。また (d) では、「ある程度発展段階に達した国」とは「ある程度」であって最終ではない途中の段階ではあるが、「協力を受ける」段階から「(他の地域に) 協力を実施する」段階に変わる一区切りの段階に到達したことを述べている。このように、一区切りの到達点を表すか否かが互換性の容認度に関わっていると考えられる。また (e) のように最終段階であっても、マイナスの文脈では容認度が低く感じられる場合がある。

このことから、「至る」は途中経過の過程に、「達する」は到達した状態に着目があると考えられる。

5.3 「合意」

以下、動作名詞「合意」が「至る」「達する」と共起する例文を検討する。

- (a) 交渉の目的は、両者が合意に至る (○達する) ことであり、相手に勝ったり、相手を降参させたりすることではない。(PB53_00523)
- (b) そういう中でワークシェアリングの労使合意に達した (○至った) のが、三洋電機です。(LBq3_00056)
- (c) 逆に、問題点としては、まず合意に至る (×達する) 討議はECや各国の官僚および政治家のみで進められ、域内市民の参加が全くなかった点が挙げられる。(LBk3_00003)
- (d) すでに条件面では年俸三千万円 (推定) で大筋合意に達しており、近日中に両球団から正式発表される。(OY15_12708)
- (e) そして、平成十五年六月に至りまして実質的な合意に達し、同八月に署名が行われたということでございます。(OM65_00005)

「合意」も (a) (b) のように、多くの場合「至る」と「達する」は互換可能である。しかし (c) の「合意に至る討議」のように、合意までのプロセスに着目がある場合、「至る」は「達する」と互換不可能である。

また「合意に達する」では、修飾語として「大筋/大筋で (8例)」「基本/基本的/基本的な (7例)」「実質的/実質的な (4例)」のように、どのように合意をしたかという成立のしかたを述べる語が多く共起していた。このことから「達する」が合意に到達したことに着目していると考えられる。

このように「至る」「達する」に共通して共起する名詞を含む例文から、「至る」はそこに至る過程・経過により着目し、「達する」は到達したことにより着目していると考えられる。

6 まとめと日本語教育への応用

以上検討してきた「至る」と「達する」の異同について整理するとともに、学習者に理解しやすく提示する手順について以下のように提案する。

- (1) 「至る」と「達する」は、実質的な意味として「目的地・場所に行きつくこと」を共通に持っているが、「至る」はその過程や経過に着目し、「達する」はその到達することに着目していることに違いがある。
- (2) 共起する名詞の種類としては、ともに抽象名詞が多い。そのほか「至る」は動作名詞とも多く共起するが、到達点に着目する「達する」では、動作名詞との共起はほとんど見られない。
- (3) 具体名詞では、「至る」が地名や「川」「山」といった具体的な地形的特徴や地理的名称、構造物などが多いのに対し、「達する」

は「頂上」「地表」など（抽象的に他のものとの関係性を表す）位置関係を表すものが多く、また臓器の名称なども共起が見られる。

- (4) 抽象名詞では、「至る」は①（範囲や経過など）時間を表す語、②（そこにたどりつくまでに）ある程度の時間と労力をかけた後の結果を表す名詞（例：死、結論、細部など）が多く共起する。「達する」では、動作が行われ、行き着いた結果の段階を表す語（多くの場合、①最高、もしくは評価すべき高いレベル、②具体的な数字や割合、③評価は低くてもそれ以上は進まない・存在しないことを表す語（例：限界、極限）が共起する。
- (5) 動作名詞では、「至る」は必要な準備期間や前段階を経て動作が完結する、もしくは一つの区切りになる名詞と共起しており、「達する」は「合意」「成熟」「認識」などごく少数の動作名詞と共起不可能していた。

以上のことから、学習者には、まず「至る」は途中の過程・経過に着目し、「達する」は到達すること、またその結果に着目していることを理解させる。そのため大きな違いとして「至る」には「範囲」を表す用法があり、「達する」は動作名詞との共起が少ないことを教えた後、(3)から(5)のような共起する名詞の特徴を導入していくことが理解を容易にするのではないかと考える。

7 おわりに

以上、コーパスを利用して実現相の機能動詞「至る」と「達する」のBCCWJにおける名詞の共起状況を調査・検討し、これらの異同に

ついて分析した。村木(1991)は、実現相として「遂げる」「果たす」などの機能動詞も挙げられており、今後はこうした他の動詞や、実現相以外の相についても検討していきたい。また今回は書き言葉コーパスで検討したが、今後はより広いコーパスを使用しての検証も必要と考える。

(山口大学留学生センター 准教授)
(大分大学国際研究教育センター 准教授)
(大分大学国際研究教育センター 講師)

【謝辞】本研究は科研費（基盤研究(C) 23520638）、および（基盤研究(C)25370591）の助成を受けたものである。

【参考文献】

- 石川慎一郎, 2008, 『英語コーパスと言語教育』大修館書店
- 大曾美恵子, 2005, 「コーパスによるコロケーションの特定—日本語学習辞書の充実を目指して—」影山太郎編『レキシコンフォーラム No. 1』, ひつじ書房, 11-23.
- 国広哲弥, 1997, 『理想の国語辞典』, 大修館書店
- 国立国語研究所, 2011, 『日本語書き言葉均衡コーパス』検索アプリケーション「中納言」(<https://chunagon.ninjal.ac.jp/login>)
- 中溝朋子, 坂井美恵子, 金森由美, 2013, 「BCCWJを利用した始動相の機能動詞と名詞の共起状況—コロケーション学習教材の基礎資料として—」『日本語教育学会秋季大会予稿集』, 272-277.
- 三好裕子, 2007, 「連語による語彙指導の有効性の検証」『日本語教育』, 134号, 80-89.
- 前川喜久雄(編), 2013, 『講座日本語コーパス

1 コーパス入門』朝倉書店
宮地裕, 1985, 「慣用句の周辺-連語・ことわざ・
複合語」『日本語学』, Vol. 4 No. 1, 62-75. 明
治書院
村木新次郎, 1991, 『日本語動詞の諸相』ひつ
じ書房

【参考資料】『デジタル大辞泉』
<<http://kotobank.jp/dictionary/daijisen/>
>2014年1月10日

- 【注】
- 1) ダイス係数は, Tスコアや相互情報量などともにコロケーションの強度を表す指標として用いられている。石川(2008)では, コロケーションの強度を表す指標を5つ取り上げ, 高頻度の語の共起強度を高く評価する頻度型, 低頻度語を高く評価する非頻度型に分け, ダイス係数はこれらの中に位置するとしている。日本語教育においては, 結びつきの強度ばかりでなく, 実際に使用されている頻度も重要な要素と考え, 中間型のダイス係数を指標として用いることとした。
 - 2) 名詞の中には2つ以上の分類に属するものもあるが, 本稿では動作名詞の意味を持つものは動作名詞に, 具体名詞と抽象名詞の意味がある場合は, 具体名詞に分類する。
 - 3) BCCWJでは接尾辞としての使用が多い「回」「度」なども名詞として使用可能な場合(例: 「回を重ねる」「度が過ぎる」), 「名詞-接尾辞可能」と分類しており, 本稿もその分類に従う。
 - 4) BCCWJでは「今日(きょう)」, 「今日(こんにち)」, 「こんにち」は同じ語彙素として扱われ, 区別されていない。そのためここでは「きょう」と「こんにち」は同じ語として頻度を計算している。
 - 5) 抽象名詞6位の「潮」は, BCCWJの語彙素で「潮

として登録されており, 「中納言」の検索でも「潮」で検索されるが, 用例はすべて「最高潮」である。

- 6) 抽象名詞では, 「境地」も「至る」「達する」に共通して上位15位以内で共起しているが, 「至る」の24例中, 17例が「哲学」のジャンルで宗教用語と共起する例であり, そのうち14例は2冊の出典に集中していたことから, 今回は分析の対象から除くこととした。
- 7) サブコーパスの略称の意味は, LBとPBは書籍, OTは教科書, OMは国会会議録, OPは広報紙, OWは白書, OYはブログを表す。